

更生園の現利用者に対する今後の支援について

これまでの検討会議での主な意見（要旨）

この年度末には55名ぐらいにまで減るだろうという見込みだが、そよかぜ荘、さつき寮、ひまわり寮、わかば寮の方は移行の対象にならず、更生園の暮らしを継続してしまうのではないかと見込んでいます。

そもそも現在暮らしている建物は200名を超える定員規模の建物で、1ユニット20名を前提にした環境であり、やはり見直し進捗の中で提案された少人数ケアのできる適切な暮らしの規模というのがあるのだろうと思う。

「社会参加が容易であり共生社会の理念に沿った場所」については、場所が問題ではなく、設計であり、理念である。

場所の問題ではない。本人の暮らしぶり、人として生きた中でより豊かな専門性の中で、少しでも本人のいらいらとかこだわりから来るのか、衝動性から来るのか、そういったものを軽減してあげて人としての暮らせる場所を作ってあげることが必要だと思う。

今まで民間で全然受け入れてもらえなかった家族は非常に心配している。移れる方は今移っているが、この先減らしていくと最後は行くところがない人が濃縮されて、閉めますと言ったら大変な事になるのではないかと。

センターで暮らしている方や同じような障害程度の方がもっと豊かに暮らすにはどうするかという議論であり、センターがなくなってしまうとか、入所者が見放されるのではない。行き場所に困るとか取り残されることがないようにしなくてはならない。

センター敷地内にあるそよかぜ荘のような建物があれば別の所でも暮らせるということであるのならば、今の更生園でなくても暮らせると思う。なぜ出られないのかを考えると、もう少しできることがあるのではないかと。

移りたくない人がいた時に200人暮らせるような施設に60人というのは寒々しい。建て方も昔の建物で、小規模で少人数ケアのできる建物、本人のいらいらやこだわりから来るようなものを軽減できる仕様になっていないから、そういうものを作って、それをどこが運営しても良いのではないかと。

建物のサイズが合っていないという話があるが、全くその通りで、建て替えましょう。昔の巨大な軍艦島に似た袖ヶ浦福祉センターの4階建ての建物が住まいとしてのサイズに全くあってない、設備管理のための維持費が大きく、全く利用者規模に見合った支出になっていないというのが現状である。

少規模なユニットにするときに、民間なのか公立なのかは別として、新しく取り組むところにどのようにお金を分配していくかという話をしている。どのように有効にお金を使い、センターの現利用者が今よりも質の高い生活を構築できるかという話である。

現在の入所者にとって良い生活に向けて議論したい。その中でどうしても大きなハードを今抱えて、なおかつ、かなり老朽化している問題というのは考えていかななくてはいけない。新しいシステムの中にうまく入れる人も対応していかななくてはならない。

もしセンターが今後継続するのであれば、少なくとも3つに分解した方がいい。もちろん県立は変わらないが、それぞれ違う母体、事業所が運営する。